

# 2020年度 学校評価報告書

校名	三田市立けやき台小学校
----	-------------

## 1 学校教育目標

**夢にむかって 堂々と歩む子の育成**

(人とつながり 笑顔あふれる けやきっ子)

～けやきの A(エース)をめざせ～

① 元気で明るい子  
 ② やさしく素直な子  
 ③ 興味を持ち、伝え合って学ぶ子

## 2 今年度の学校重点目標

1 めざす児童像(人とつながり、笑顔あふれる 心ぼかぼかな けやきっ子)

【合言葉】  
 「さわやかなあいさつ もくもくそうじ ふわふわことば 響き合う歌声」  
 (生活の中での意識化と定期的な評価)

- ・「さわやかなあいさつ」が出来る子 → 進んでさわやかなあいさつが出来る子
- ・「もくもくそうじ」が出来る子 → 進んでゴミを拾う等、より良い環境を求め子
- ・「友だちを大切にする」子 → 「ありがとう、ごめんね、だいじょうぶ」が素直に言え、友だちを温かい言動で支える子
- ・「歌声で響き合う」子 → 心を合わせ、声を合わせて響き合う歌声で表現できる子

2 めざす学校像

- ・「チームけやき」として組織的に取り組む学校
- ・学びの場として 安心で安全な学校
- ・児童の挑戦意欲を促し、達成感を称賛する学校
- ・児童の自治的な活動を支援する学校
- ・さわやかなあいさつや 笑顔と歌声があふれる学校

## 3 総合的な自己評価

子どもの育ち、学校教育、地域との連携等、全ての項目について良好である。児童、保護者アンケート共にほとんどの項目で「A(そう思う)、B(まあそう思う)」の合計がほぼ90%を超えていた。学校が「楽しい」も94%と、子どもたちはコロナ禍においても、楽しく学校生活を送っていると考えられる。子どもたちが安心して学習や生活ができる環境を整え、今後もすべての子どもたちの笑顔があふれる学校を目指す。

あいさつは、以前から児童の意識と保護者の評価の差が大きな項目の1つであるが、「自分からしようとしている」について「A(そう思う)」「B(まあそう思う)」と答えた児童は88%と他の項目と比べて若干低い。また保護者の評価も80%となっている。「目指す子ども像」実現への合言葉として習慣化を図るために、児童会によるあいさつ運動や教職員の校門でのあいさつ運動、PTAの立当番、地域の見守り隊の方からも声かけをいただくことにより、これからも「あいさつをすることが気持ち良い」と実感できる働きかけを工夫していく。

「楽しい授業、学習内容が分かり興味を持って学べる授業」を目指した取り組みについては、その成果として子どもたちが学んだことを身につけられたと実感できているかどうかによって、日々の授業を振り返る指針となる。アンケート結果では児童・保護者とも約95%が「A・B」と回答しており、分かりやすい授業に努めていると回答があった。コロナ対策支援教員等の配置によるきめ細やかな支援もその効果につながっていると考える。更に発見やワクワクする楽しい授業を目指し、授業方法の工夫改善に努めていく。

次年度以降においても、教職員の意識を一層向上させ、家庭・地域とも連携協力を図ることで、課題達成に向け取り組んでいきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

エアコンやエレベーターの設置等、教育環境の充実が図られつつあり、保護者の安心につながっている。

校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に学校運営を行っている。本年度も、より実践的に算数科の授業研究を通じた表現力の育成を柱に、学校・家庭・地域が密接に連携協力して特色ある教育活動が展開された。コロナ禍においても教職員の資質向上に努めるとともに、子どもたちの実態に応じ、「学びに向かう力を育てる」というテーマで継続した取り組みを進めており、さらに、子どもたちが主体的に考え、学んだことを生かせるよう指導願う。

課題とするあいさつについては、学校地域運営協議会委員や学習支援、下校見守りボランティアなどで顔を覚えている地域の私たちに、道路で出会ってもしっかり挨拶してくれている。

学校だよりの地域回覧や、HPの更新、子どもの育ちを常に家庭・地域に発信し、開かれた学校づくりが行われている。今年度は中止をせざるを得なかった参観日やオープンスクールについては、次年度は実施できることを期待している。

学校地域運営協議会も順調に運営できている。学校も地域もお互いにプラスとなる活動にしていきたい。引き続き、ボランティア活動の充実を図っていく。

いじめや虐待等の防止について、子どもたちの安心・安全に向けた取り組みについても協力していきたい。

## 5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	確かな学力の向上	良好。算数科における子どもの思考力・表現力を高めた。	安全に配慮した上で、どのような話し合いをさせたいのかを明確にし、課題に応じ適切に指導する。	「分かる授業」「楽しい学び」を積み重ね、基礎学習の定着も図っていただきたい。
	教員の指導力の向上	良好。英語専科教員の配置により、専科教員とALT等の連携による指導体制が確立している。	専科教員とALT等との連携による指導。ネイティブな英語に触れる機会を充実させる。	子どもたちは、ネイティブな英語に触れる機会を充実させてもらっている。新しい教育課程で、基礎・基本の定着を図っていただきたい。
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づく取組	良好。学校いじめ防止基本方針に基づく取り組みを進めた。早期発見及び早期のきめ細やかな対応により、迅速な対応が図れた。	長期欠席や問題行動がある児童の家庭や関係機関との連携を図る。	それぞれの立場で守秘義務を果たし、地域として協力していきたい。
	生活習慣の確立・生徒指導の徹底	良好。「けやきのくらし」に沿って、規範意識等の社会性を養えた。	定期的な研修会を実施し、教育活動全体を通じて全職員同一指導の徹底を図る。	学校、家庭、地域の役割を明確にし、連携協力して進めることが大切。
特別支援教育	特別支援学級・通級児童へのきめ細かな対応	良好。校内教育支援委員会を中心に適切な就学指導に努めた。	体制を継続するとともに、校内教育支援委員会の機能を充実させる。	児童や保護者への啓発活動など、着実な取り組みが見られる。教室がない状況を理解し、PTAの会合等については学校外の施設を使用する。
	通常学級在籍児童へのきめ細かな対応	良好。SSW・SC・指導補助員などとの連携が図れた。	特別支援コーディネーターを中心に合理的配慮の具体的手立てを講じる。	特別支援コーディネーター2名体制は、大規模校には必要。必要な支援を願う。
保護者、地域住民との	保護者、PTA組織との連携	良好。校長のリーダーシップのもと組織的に協力できた。	学校に係る情報の積極的公開を継続する。	ホームページの日々の更新や学校だよりのPTA広報誌があり、情報発信が充実して

連携				いる。
	地域住民との連携	良好。下校・学習・環境ボラ等、地域との連携推進が図れた。	地域コーディネーターを中心に、組織化を推進し、より連携を図る。	学校地域運営協議会は順調に運営できている。地域コーディネーターを中心に、地域も協力していく。
学力保障について	知・徳・体バランスのとれた児童の育成	良好。ひょうごがんばりタイムを導入。学力の二極化を食い止める。	ひょうごがんばりタイムの取り組みを継続し、内容の充実を図る。	家庭・地域との連携協力のもと、子どもたちの規範意識の醸成や安全面を考慮した環境整備など、校長のリーダーシップのもと、学校としてよく取り組んでいる。コロナ禍における心のケアを基礎に、学校・家庭・地域が連携して良い学習環境を整える。
	教師の授業力の向上	良好。市の指定研究を継続し、他校の参観者からの評価を得た。	来年度も指定研究を受け、全教員の授業力向上を目指す。	
	地域の核となる学校づくり	良好。地域防災や芝生管理、植栽など、協力体制の整備。	多様で経験豊富な人材を学校に招くことで、地域の活性化を促す。	

## 6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
11～12月	児童・保護者アンケートの実施。結果の分析。
12～1月	教職員による自己評価の実施。結果分析。
3月	評価結果をもとに2021年度に向けての計画・立案。

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

## 7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
5月	学校教育目標・評価手順の説明 運動会参観と意見交換
10月	児童・保護者の中間評価をもとに評価委員会開催 音楽会参観と意見交換
10月	運動会の参観と意見交換
11月	音楽会の参観と意見交換
2月	校内図工展参観と意見交換
3月	児童・保護者・職員の評価をもとに評価委員会開催 評価のまとめ

## 8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
4月	学校だより	学校教育目標を説明し、今年度の重点目標や主な取組、計画等を説明。	
3月	学校だより(臨時号)	学校評価(児童・保護者・教職員の自己評価及び学校関係者評価)の結果について記載。保護者に配付。	
通年	学校ホームページ	学校評価の結果をアップ。学校評価(自己評価及び学校関係者評価)の結果をアップ	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います。 → 資料編添付